

見たこと、聞いたこと、歩いてきた道

最終回 高知のコンビニはすごい



松本誠司

まつもと せいし／1968年、高知県生まれ。全障研高知支部。「障害者の生活と権利を守る高知県連絡協議会」事務局長を務め障害者運動の先頭に立ち続ける。趣味は観劇にスポーツ観戦。それからグルメも。

障全協（障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会）は結成以来、「生きる権利」「学ぶ権利」「働く権利」「政治参加の権利」の4つの権利を掲げて、障害者と家族の生活と権利を守る運動を進めてきました。私は20代の頃から、高知で「障高連」の事務局を担当しています。「分校に通学を認めさせる」「3歳児未満の障害児の保育園入園」「医療的ケアが必要な視覚障害児を盲学校幼稚部へ」「県職員採用試験の点字受験」など一人のねらいを、みんなのねらいとして実現してきました。

現在は、政府の審議会や担当課長会などの資料は当口にネットからとることができます。しかし、20世紀は県庁の障害者福祉課にもらいに行く必要がありました。初めての「障害者プラン」が発表になったとき、課長さんに「もらう約束」はとつていましたが、郵送で高知に着くのに時間がかかり発表から数日後にもらうことができました。

90年代の中頃、橋本大一郎氏が知事になったとき、「福祉医療」の改悪がされようとしました。これに対して、身体障害者連合会、育成会、難病連などとともに「改悪反対」で団結して運動にとりくみ、直接橋本知事と懇談し、改悪しないよう要求しました。知事は「この制度を改悪できない」と断念しました。

高知は全国から遅れていることが多々あります。「街づくり辻千種さんが委員に就任しまし

た。今は、私も含めて肢体障害、視覚障害、聴覚障害の団体の代表が高知県障害者施策推進協議会の委員をしています。

90年代の中頃、橋本大一郎氏が知事になったとき、「福祉医療」の改悪がされようとしました。これに対して、身体障害者連合会、育成会、難病連などとともに「改悪反対」で団結して運動にとりくみ、直接橋本知事と懇談し、改悪しないよう要求しました。知事は「この制度を改悪できない」と断念しました。

この一年間、連載にお付き合ってくださいありがとうございました。（おわり）

条例」もその一つです。99年に施行となりました。条例づくりは県が関係する団体を集めて検討を進めていきました。最終盤、私「コンビニは（整備基準の）対象になりますよね」、県の担当者「対象は300平米以上ですから、ほとんどのコンビニは対象ではありません」、私は「つまり、生活で一番身近なコンビニが対象外なら、役にたたん条例をつくることになりますね」というやりとりをしてから、県の担当者が「300を100にしたらコンビニも対象になります」と高知のコンビニの入口は、「段差がなく、自動ドア」になっています。最近、県の担当者から「大手のコンビニから、他の県では自動ドアなんて言われていないと言われることがあります」と。ちなみにローソンもセブン・イレブンも、